

慎重さを欠き、無用のご懸念をかけた結果になりましたことをお詫びいたします。名簿発送後約2か月になりましたが、他の会員や宮内庁その他から、別になんのご沙汰もございませんことをここに報告いたします。

会員名簿の発行

会長 大滝末男

昭和55年8月、大阪で第2回全国集会在開催された折、水草同好会が水草研究会に改名されました。それと同時に、不肖私が会長に推挙され現在にいたりましたが、この2年間に会員は約100名から230名ほどに達しました。皆様のご協力で、会報も年4回順調に発行され、関係各方面から注目され好評のようでありますことは、慶賀に絶えません。

会員の増加に伴い、本会もようやく軌道にのってきましたが、事務処理の方は私一人の手におえなくなりました。幸いにも去る10月1日から、京都大学農学部応用植物学研究室の別府敏夫・田中修両先生の方でお引受け頂けることになり、このたび移動しましたことは、会報9号で先刻ご承知かと存じますが、昭和58年度からは会費納入などで、お間違いないようお願い申し上げます。

さて、昨年有難いことには、私の都立高校の教職時代から友人であるT先生から、本会に金20万円もの多額の寄付金がありました。このご厚意で、このたび会員名簿を400部作らせて頂きましたことをご報告いたします。

昭和56年6月1日現在の名簿は、会報9号と同封され、すでに皆様のお手許に届いていると存じますが、その後10余名の新入会員がご存じます。ご住所その他でご修正を必要とする場合は事務局までご一報願います。なお、お気づきとは存じますが、名簿の中に○印をつけ、純粋の会員ではございませんが会報の贈呈者または交換団体名も記入されています。これらは本会のためにご支援ご協力下されている方々でございます。ところで○印の中に、水草にご関心があり、ご造詣もことのほか深い皇太子殿下のお名前を、私の責任でのせて頂きましたところ、過日私よりかなり年輩の東京の一会員から、これは不敬に当るのではないかとのご忠告めいたお電話を頂きました。考えてみれば甚だ軽卒で誤解をまねく結果になったものと、旧帝国海軍士官の私は深く反省させられました。

私は、いままでたびたび東宮御所に招かれ、水草その他について、殿下に身近に接し、ご下問を受け、ご進講申しあげましたりしてまいりましたものですから、つい

ご承知のように、天皇陛下・皇太子殿下・義宮殿下はお揃いで生物学のご研究ではご造詣が深いばかりでなく、徹底した自然愛護・平和主義者でございます。その意味で、私は生物教育に永年携わってきたことを誇りにもつと同時に、皇室に対し、特に親近感をもち、敬愛の念は人一倍強いことを自負している一人であります。

会員名簿発行について、経過の一端をご報告させて頂きましたが、どうぞ会員の皆さん、相互に水草の研究や親睦のために、会員名簿をおおいにご活用下さるようお願い申し上げます。

終わりに際し、改めてご寄付下されたT先生に心から厚く御礼申し上げます。(昭和57年11月30日記)

会員名簿訂正

[Redacted]

投稿のお願い

会員の皆様からの投稿をお待ちしております。ちょっとした経験や観察の記録なども御気軽にお寄せ下さい。

原稿は横書き原稿用紙を用い、図表は別紙に書いて下さい。

原稿の送り先 〒657 神戸市灘区鶴甲1-2-1

神戸大学教養部 角野康郎宛

No.11の発行予定3月(原稿締切 2月20日)

水草研究会会報 No.10 (1982年12月)
〔Bulletin of Water Plant Society, Japan〕
発行 水草研究会 (〒606 京都市左京区北白川追分町
京都大学農学部応用植物学研究室内)
振替口座 京都 5-16477
印刷 中村印刷株式会社 (神戸市灘区友田町)